

学習内容報告書

学校名	富山県立高岡高等学校
授業者	課題研究Ⅱ 担当教諭

1. 単元計画

1-1. 単元名

課題研究Ⅱ（SDGs 及び富山県内の課題に関するテーマ）
------------------------------

1-2. 学年

2年
----

1-3. 教科

総合的な探究の時間（人文社会科学科・理数科学科）、課題研究（理数科学科）
--------------------------------------

1-4. 単元の概要

SDGs や富山県内の様々な課題の中から興味を持ったものを研究テーマに設定し、グループで調査・研究を行って、その結果をポスターセッションで発表し、研究集録にまとめる。
---

1-5. 単元設定の理由・ねらい

<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs や富山県内の現状について知り、課題を見つけて、研究テーマを設定する。</li> <li>・研究の過程を通して、探究する態度と能力、コミュニケーション能力を育む。</li> </ul>
--

1-6. 育みたい資質や能力、態度

<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題発見力、探究心、論理力（結果から論理的に結論を導く能力）、発想力。</li> <li>・情報収集や情報リテラシーなどのスキル。</li> <li>・計画を立てて、実験・観察・調査を遂行する能力。</li> <li>・研究成果をポスターや論文にまとめる能力。</li> <li>・ポスターセッションでのコミュニケーション能力（プレゼンテーションスキル、疑問力、質問力）。</li> </ul>
---

1-7. 単元の展開（前 53 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 ～ 10	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味あるテーマごとにグループ分けをし、一年間の研究の流れと評価観点を確認する。</li> </ul> <p>情報収集・研究課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究課題の案を出し合い、絞りこんでいく。</li> <li>・課題設定報告会資料を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人文社会科学科・理数科学科 2 クラス 80 名を混合にして、3～5 名のグループを 17 班作る。</li> <li>・指導教諭が 1 人 1 グループを担当し、助言する。</li> </ul>
11 12	<p>研究課題設定報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの教室に分かれ、1 班ずつ課題設定理由や研究計画を発表し、質疑応答する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問を促す。</li> <li>・大学教授から指導助言をもらう。</li> <li>・自己評価・相互評価（評価表）</li> </ul>
13 ～ 21	<p>調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍やインターネット等での調査</li> <li>・アンケート・フィールドワーク・実験等の実施</li> <li>・ポスターを作成し、発表練習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題設定報告会の振り返りをさせ、得られた助言や評価を基に、研究の方向性を検討する手助けをする。</li> <li>・ポスターや発表練習をチェックし、改善のポイントを示す。質問を予想し、それに備えるように助言する。</li> </ul>

22 ～ 25	<p>中間発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターセッション形式</li> <li>・参加者は、1・2年人文社会科学科・理数科学科生徒、本校教員、大学教授（通常は文化祭と同時開催で、他の生徒や保護者、地域の方にも来ていただく。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表約5分+質疑応答（1セット15～20分）</li> <li>・質問を促す。</li> <li>・大学教授から評価・指導助言をもらう。</li> <li>・自己評価・相互評価（評価表）</li> </ul>
26 ～ 40	<p>調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍やインターネット等での調査</li> <li>・アンケート・フィールドワーク・実験等の実施</li> <li>・ポスターを作成し、発表練習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間発表会の振り返りをさせ、得られた助言や評価を基に、研究の課題や改善点について考えさせる。</li> <li>・ポスターや発表練習をチェックし、改善のポイントを示す。質問を予想し、それに備えるように助言する。</li> </ul>
41 ～ 46	<p>三校合同発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富山県内の3つの高校が一堂に会し、ポスターセッションを行う。</li> <li>・各校の代表班がステージでプレゼンテーションを行い、質疑応答する。</li> <li>・参加者は、三校の1・2年人文社会科学科・理数科学科生徒、教員、大学教授（通常は保護者や一般の方も入場可。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表約5分+質疑応答（1セット15～20分）</li> <li>・質問を促す。</li> <li>・大学教授から評価・指導助言をもらう。</li> <li>・自己評価・相互評価（評価表）</li> </ul>
47 ～ 49	<p>三校合同発表会の振り返り・研究のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターや発表原稿を修正・改善し、プレゼンテーション力をさらに磨く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三校合同発表会の振り返りをさせ、得られた助言や評価を基に、さらに改善する手助けをする。</li> </ul>
50 ～ 51	<p>校内発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者は、1・2年人文社会科学科・理数科学科生、2年普通科生徒、本校教員、大学教授</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表約5分+質疑応答（1セット15～20分）</li> <li>・質問を促す。</li> <li>・大学教授から評価・指導助言をもらう。</li> <li>・自己評価・相互評価（評価表）</li> </ul>
52 ～ 53	<p>研究集録作成・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究内容を、4～6ページ程度でまとめる。</li> <li>・一年間の取組について自己評価し、他と共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三校合同発表会の振り返りをさせ、研究の今後の課題について考えさせる。</li> <li>・論文の基本的な形式を指導する。</li> <li>・一年間の研究を通して考えたこと、得たこと等を各自が振り返り、他と共有する場を設ける。</li> </ul>

ポスター一例

## 3 1 7 Save Our Ocean!

～自主的な参加を促す海洋保全活動の特徴～  
高岡高等学校 人文社会科学科 英語2班 木林 瀧水 宮森 山元

**BACKGROUND**

Toyama Bay

However...

How can we encourage young people to participate in beach cleanup activities?

garbage washed ashore      lack of cleanup volunteers

**HYPOTHESIS** Social contribution is not enough motive to attract young people and engage them in beach cleanup activities.

**PREVIOUS RESEARCH**

9 motives behind volunteer activities (based on a survey by Mori et al. 2010)

Social Engagement

- ① Social Interaction
- ② Relationship Building

Self-esteem

- ③ Physical Wellness
- ④ Fun Elements
- ⑤ Nature Immersion

Generosity / Self-sacrifice

- ⑥ Fulfillment of helping others
- ⑦ Social Contribution

Avoidance / Protection

- ⑧ Sense of Belongingness
- ⑨ Career / Experience

Knowledge Acquisition

**PRELIMINARY INVESTIGATION 1 - Questionnaire**

PURPOSE To find out how Takaoka High School students view beach cleanup activities.

RESULTS (335 respondents)

Students' Image of Beach Cleanup Activities

**PRELIMINARY INVESTIGATION 2 - Fieldwork**

We joined 5 different environmental activities held in Toyama.

PURPOSE To learn how those activities are conducted.

To find ideas that lead to an increase of participants.

RESULTS All of us (4 group members) felt positive about our experiences and were convinced to join future activities.

>Why? Member A: Social Engagement, Member B: Social Contribution, Member C: Social Interaction, Member D: Knowledge

## EXPERIMENT

We planned a beach cleanup activity based on the results obtained from Preliminary Investigation 1 and 2.

**PURPOSE**

To investigate whether the participants (12 Takaoka High School students) were attracted to the content of the activity and motivated to engage in future volunteer activities.

**METHOD**

1. Planning & Implementation of a beach cleanup activity
  - Design fun activities for participants to enjoy (from Preliminary Investigation 1)
    - Play a bingo game during the cleanup activity
  - Create social interaction (from Preliminary Investigation 2)
    - Provide opportunities to interact with students of other grades and the local leader
  - Meet the needs of different participants (from Preliminary Investigation 1, 2)
    - Incorporate a variety of activities
2. Questionnaires & Interviews
  - To investigate - whether or not the beach cleanup activity met the participants' expectations. - their feelings toward the beach cleanup activity after the participation.

**RESULTS**

Students' Impressions after the Activity

Q. Do you want to participate in beach cleanup activities again? **YES! 100%**

**CONCLUSIONS**

- > 'Fun Elements' as well as 'Social Contribution' may attract young people and effectively motivate them to participate in beach cleanup activities.
- > Providing learning opportunities ('Knowledge Acquisition') in beach cleanup activities can increase young people's motivation for the second (future) engagement.

Reference:  
Mori, Yasuhiko, Mori, Kazuo, Inadaka, Hiromasa, Maeda, Yuzunobu, Asano, Toshimasa, and Sugiyama, Syogo (2010) The Relationship between Types of Voluntary Activities in which People Participate and their Motives for Participation.

2. 学習活動の実際（海岸漂着ゴミに関する研究テーマを設定した班）

2-1. 単元における位置づけ

単元 53 時間中の 28～38 時間目

2-2. 本時の目標

- ・校内海岸清掃活動を生徒自身で企画・実施する。
- ・より多くの生徒に海岸清掃活動に参加してもらうための工夫を考える。
- ・海岸清掃活動前後の参加者の意識の変容を調査し、次回に生かす。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>&lt;企画・準備&gt; 6時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内海岸清掃活動を実施する日時を考え、自治会の方に連絡を取って相談する。</li> <li>・以下のことを話し合って決定する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>- 生徒の募集方法・参加者を集める工夫</li> <li>- 参加者の活動への満足度を上げる工夫</li> <li>- 実際の活動計画（交通手段・時間配分等）</li> </ul> </li> <li>・班員で分担し、以下のものを作成する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>- 校内清掃活動企画書</li> <li>- 参加者募集ポスター</li> <li>- 校内放送原稿</li> <li>- 保護者参加同意書</li> <li>- 健康チェックシート</li> <li>- ビンゴカード（清掃時に行う活動用）</li> <li>- 参加者用事後アンケート</li> </ul> </li> <li>・ポスター掲示や校内放送、生徒会への依頼等を通して、参加生徒を募る。</li> <li>・実施内容について自治会の方とこまめに打ち合わせを行い、最終決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の清掃活動の実施例を参考として示す。</li> <li>・企画書を確認し、不足している点を指摘する。 → 最終案を学校に示し、活動実施の許可を得る。</li> <li>・バス会社や自治会に連絡を取る。</li> <li>・生徒が自分たちで話し合って、活動に必要なことに気付き、詳細を決めていけるように見守り、教師主導にならないように注意する。</li> <li>・清掃活動が、課題研究の課題解明にどのようにかかわるのかという視点を常に忘れないように助言する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">（評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いに積極的に参加し、意見を出したか。</li> <li>・事前準備において、自分が担当する仕事に責任を持って取り組んだか。自分で考えて、よりよいものになるよう工夫したか。</li> </ul>
<p>&lt;清掃活動の実施&gt; 2時間 ※休日に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の確認、健康チェックシートの回収</li> <li>・バス内での説明</li> <li>・自治会の方のお話（海岸漂着ゴミや清掃活動の現状等について）</li> <li>・清掃活動の実施（環境ビンゴゲーム）</li> <li>・バス内で事後アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に同行し、危機管理・衛生管理を行う。</li> </ul> <p style="text-align: center;">（評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に柔軟に対応して。自分の役割を果たしているか。</li> <li>・参加者や地域の方と積極的に交流しているか。</li> </ul>
<p>&lt;振り返り&gt; 4時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事後アンケートやインタビューの結果を整理し、活動前後の参加者の変容を分析する。</li> <li>・企画・準備段階から清掃活動の実施までの反省点や課題を話し合い、記録する。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">（評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートやインタビューの結果を基に考察し、結論を導き出せたか。</li> <li>・一連の活動を振り返り、問題点を見つけ、改善策を考えられたか。</li> </ul>

### 3. 今回の活動の自己評価

- ・自治会の方との打ち合わせを生徒に直接行わせたことで、地域の人とかかわる体験をさせることができ、生徒は失敗をしながらもそこから学ぶことができた。
- ・一つの活動を実施するために、多くの準備や配慮、調整が必要なことを生徒は学ぶことができ、苦勞が多かった分、達成感や充実感を感じることができた。
- ・コロナ禍の中での実施ということもあり、参加者の募集が思ったように進まなかった。チェックシートの作成など、準備することもいつもより多く、生徒の負担が増えた。

### 4. 今後の課題

- ・自分たちで清掃活動を企画・実施させることは生徒にとって貴重な経験だが、一方で、その年のテーマによっては、課題研究の中での位置づけが難しい。また、今回のように、清掃活動が課題研究の課題解明のための実験を兼ねている場合、生徒の負担が大きくなりすぎるおそれがあり、教師の支援の加減を柔軟に調整していく必要がある。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・実際には、授業時間以外の放課後や週末も活用して、生徒は自発的に準備を進めている。
- ・自治会の方と学校との関係づくりが不可欠である。課題研究Ⅱでは、平成 27 年より、毎年 1 つ以上の班が海洋環境や海岸漂着ゴミをテーマに研究を行っており、夏頃に高岡市六渡寺海岸で生徒主催の海岸清掃活動を行うことが恒例になっている。当初は、教員が自治会の方と連絡を取り、より教師主導で生徒を引率していたが、徐々に生徒主体の活動へと変化してきた。現在は、最初の連絡からほぼ全てを生徒が行っている。



海岸清掃活動の様子

